

## 第 35 卷 1 号特集 「林業の成長産業化に求められる技術と条件」への投稿募集

戦後造成した人工林が本格的な利用期を迎える中、これらの森林資源を循環利用し、林業の成長産業化を図ることが重要となっています。こうしたなか、2019年3月に新潟市において「新潟県における林業成長産業化に向けた取組」と題する森林利用学会シンポジウムが開催されました。このシンポジウムでは、行政、素材生産、加工流通の立場から、新潟県を中心とする地域において木材を低コストで安定的に供給するための行政施策や企業の取組が紹介され、その後のパネルディスカッションでは生産性向上や施業集約化のための手法、さらには人材育成に到るまで、具体的な事例を交えながら熱心な議論が行われました。

林業を成長産業とするためには意欲のある経営者を育成し、木材生産を通じた持続的な林業経営を確立するため、路網整備、高性能林業機械の導入、資源の高度利用、出荷ロットの大規模化、木材加工施設の整備等、川上から川下までの取組を総合的に推進する必要があるとされています。従来から森林利用学分野では生産性の向上や低コスト化を目指し、路網整備、林業機械、作業システムなど数多くの技術研究を行ってきたところです。しかし、今後の国内における労働人口や木材需要の減少を考えると、林業の自立的な成長を実現するためにはいっそうの技術的躍進が欠かせません。とくに機械化が遅れているとされる更新作業や保育作業の効率化や省力化に関する技術開発には大きな期待が寄せられています。また、木材輸送や中間土場の設定などロジスティクス管理についても改善の余地があるでしょう。その一方で、こうした技術的課題に一定の進展がみられたとしても、林業が高い立地依存性を有することには変わりなく、全ての森林あるいは人工林において十分な採算性が望めるわけではありません。持続的な林業経営による安定的な木材供給が可能となる条件を明らかにし、それらの条件を満たす森林を示すことによって、成長産業化に向けた投資や基盤整備を効果的に行うことができ、それに必要な技術開発も加速化される可能性があります。

そこで本特集では、更新、保育および伐出などの施業にロジスティクスなどを加え、それらの効率化や低コスト化を目的に行われた研究ならびに持続的な森林経営による木材安定供給が可能な森林の条件やそうした森林の分布、賦存量および供給可能量について検討した研究を広く募集することとしました。こうした両面からの知見をとおり、林業成長産業化に向けた課題解決への効率的な手法や道筋が明らかになれば幸いです。

本特集は、2020年1月末発行の森林利用学会誌第35巻1号への掲載を予定しており、論文（研究・技術）については**2019年8月30日（金）までの**、その他の種別（速報、研究・技術資料、抄録、雑録）については**2019年9月30日（月）まで**原稿を募集いたします。会員の皆様からの多数のご投稿をお待ちしています。

森林利用学会誌編集委員会